



「結婚指輪」



「ぺんぺん草」

星野さんが語りかけるやさしさと愛がこもった詩・水彩画・サインペン画約100点を展示。

不慮の事故で脊髄を損傷し手足の自由を失った星野富弘さんは、その後の闘病生活を家族の献身的な介護のもと、口に絵筆をくわえて詩画を描き始めました。その中に書かれている詩は、身近な草花を題材にして、あたたかさや愛情にあふれおり、多くの方に感動を与え、生きる喜び・希望をあたえ続けています。「花の詩画展」は日本のみならず、ニューヨーク・サンフランシスコ・ホノルル・ワルシャワなどでも開催され、好評を博しています。1991年に群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に「富弘美術館」が開館して以来、600万人以上の方が来館をしています。

中津万象園・丸亀美術館では、2012年1月以来5年ぶりの開催になりますが、今回はその時には紹介できなかった作品も含め約100点を展示いたします。この「花の詩画展」が多くの方に感動・生きる喜び・そして明日への希望を与える機会になることを願っております。



●著書

新版「愛、深き淵より。」「新編 風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」「銀色のあしあと（三浦綾子氏との対談）」「速さのちがう時計」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「山の向こうの美術館」「たった一度の人生だから（日野原重明氏との対談）」「ことばの雫」「風の詩」「種蒔きもせず」

※英訳された著書は国内外の多くの人に読まれている。（「愛、深き淵より。」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」は、ミロンセラー）これらの本に発表されている作品は数多くの教科書に掲載され、また合唱曲集、歌曲集、CDにもなっている。

●星野富弘 プロフィール

- 1946年 群馬県勢多郡東村に生まれる
- 1970年 群馬大学教育学部保健体育科卒業  
中学校の教諭になるがクラブ活動の指導中頸髄を損傷、手足の自由を失う
- 1972年 病院に入院中、口に筆をくわえて文や絵を書き始める
- 1979年 前橋で最初の作品展を開く  
退院
- 1981年 雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイを連載
- 1982年 高崎で「花の詩画展」  
以後、全国各地で開かれた「花の詩画展」は、大きな感動を呼ぶ
- 1991年 群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に村立富弘美術館開館
- 1994年 ニューヨークで「花の詩画展」
- 1997・2000年 ホノルルで「花の詩画展」
- 2001年 サンフランシスコ、ロサンゼルスで「花の詩画展」
- 2003年 ワルシャワ国立博物館で「花の詩画展」
- 2005年 （新）富弘美術館オープン
- 2006年 群馬県名誉県民
- 2010年 富弘美術館開館20周年 富弘美術館入館者600万人
- 2011年 群馬大学特別栄誉賞  
現在も詩画や随筆の創作を続けながら、全国で「花の詩画展」を開いている



●交通のご案内

- お車利用
  - 瀬戸中央自動車道 — 坂出北ICより約8.5km — 約15分
  - 坂出ICより約14km — 約20分
  - 瀬戸中央自動車道 — 普通寺ICより約5km — 約10分
- JR利用
  - 岡山駅—（瀬戸大橋）— 丸亀駅（快速便）……………約55分
  - 丸亀駅下車タクシー……………約6分
  - 多度津駅下車タクシー……………約5分
  - 讃岐塩屋駅から徒歩……………約15分

【お問い合わせ】2017星野富弘花の詩画展in丸亀実行委員会／Tel.0877(23)6326 中津万象園